

答弁書第三号

内閣参質七八第三号

昭和五十一年十月二十二日

内閣總理大臣 三木武夫

参議院議長 河野謙三殿

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対する答弁書中正誤

三ページ 五行 「可能となるほど」は「可能となるなど」の誤り。

(答弁書第三号)

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対する答弁書

一について

我が国において、現在住宅ローンの償還方式として元利均等方式が一般化しているのは、元金均等方式に比べて、元利均等方式の方が、利用者にとって返済しやすく、かつ、多額の借入が可能となるほど、利用者のニーズにより適合していることによるものと考えられる。

二について

住宅ローンの償還方式については、それぞれの金融機関が利用者のニーズの動向を参しやすくしつつ決定しているところであり、政府がこれに関して指導することは考えていない。

三について

近年住宅ローンについては、元利均等方式のみを採用する金融機関が増えているが、これは

利用者のニーズが元利均等方式に向つていていること等を勘案した結果と思われる。